再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラムにおける倫理・社会共創に関する課題の現状

Department of Medical Innovation, Osaka University Hospital

大阪大学医学部附属病院　未来医療開発部

前阪和城、山本奈緒美、山本洋一

背景・目的

✓AMED事業「再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム」において、実用化支援課題「倫理・社会共創課題」では、再生・細胞医療・遺伝子治療分野の各研究開発が臨床段階へと円滑に展開し社会実装できるよう、倫理・社会共創に関する支援を遂行する。

✓各研究開発への支援開始にあたり、倫理・社会共創的な課題について、研究者の認識を把握する目的で調査を実施した。

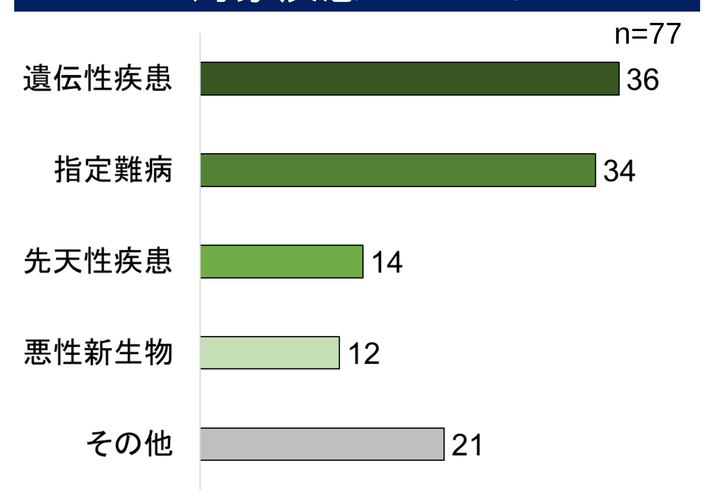
研究者に対するアンケートの概要

利用方法	各研究を推進するにあたっての倫理・社会共創的課題の有無を確認し、支援が必要な領域と対応可能な支援策の具体化に活用する。
対象研究開発課題	110テーマ （右図※印の研究課題を対象）
設問数	12問、選択式（複数選択可）
実施期間	2024年10月9日～2024年11月18日
回答数	84テーマ （回答率 76%）

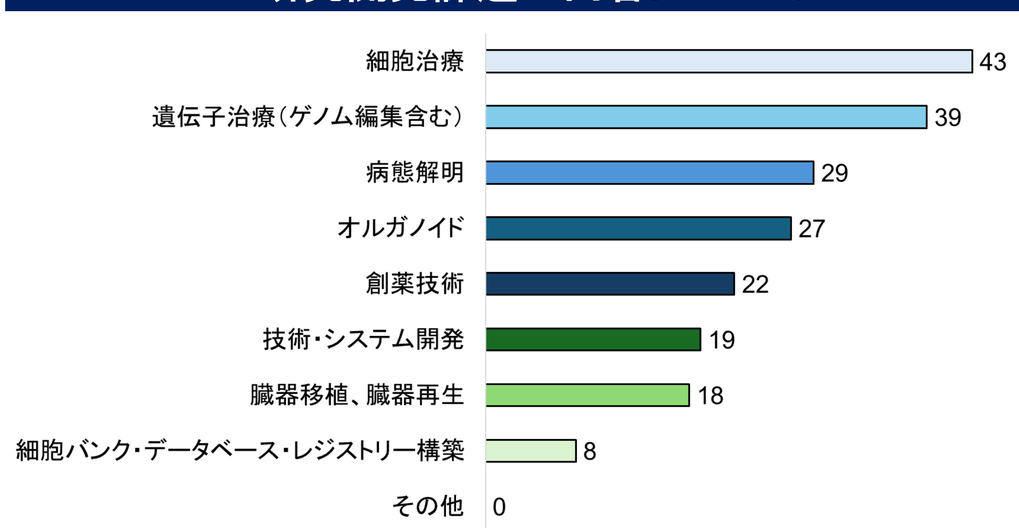
AMED事業

倫理・社会共創課題
＜研究倫理面の支援や社会共創の推進に関する支援＞

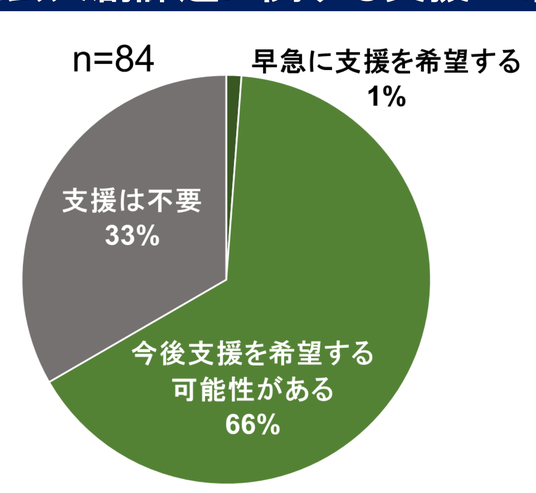
対象疾患について



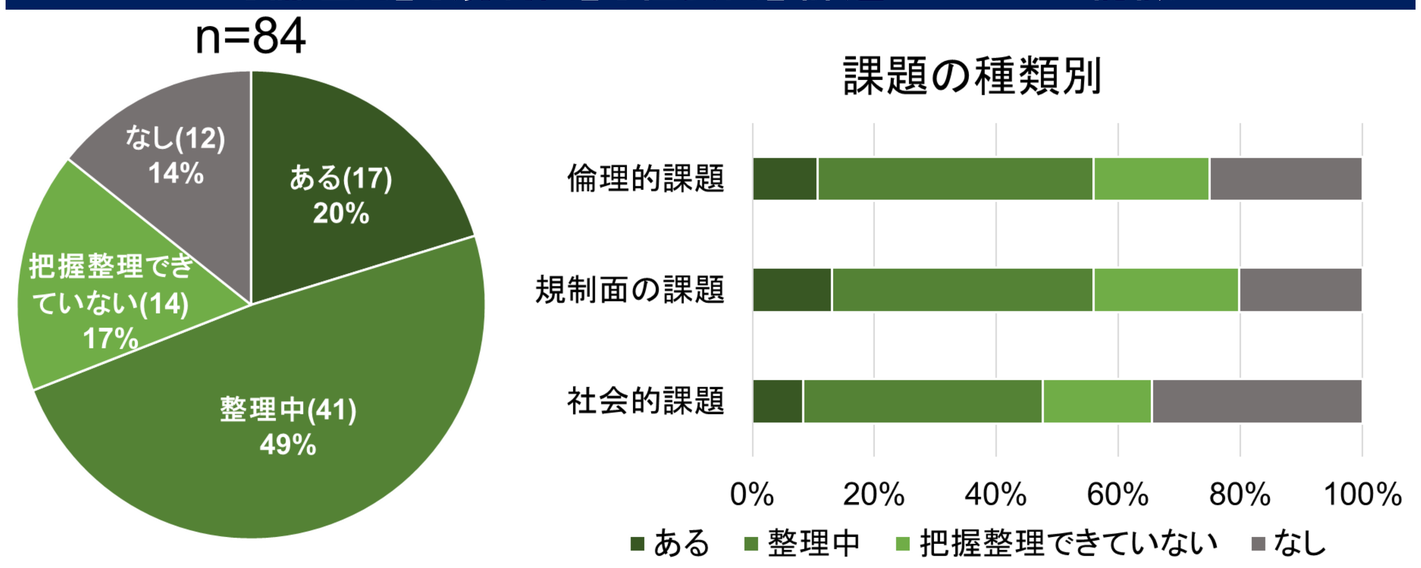
研究開発課題の内容について



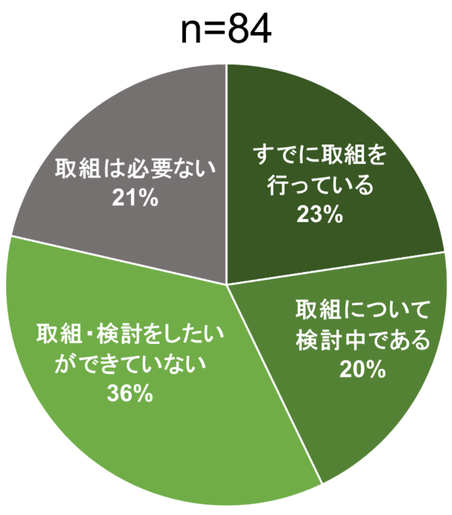
倫理・社会共創課題に関する支援の希望



社会実装を目指すうえで解決が必要となる『倫理的』『規制面』『社会的』課題についての認識



研究への患者・市民参画（PPI）の取組について



【取組内容】

市民公開講座・市民参画シンポジウム

大学主催の公開講座での情報提供や対話

高校生対象の公開講座

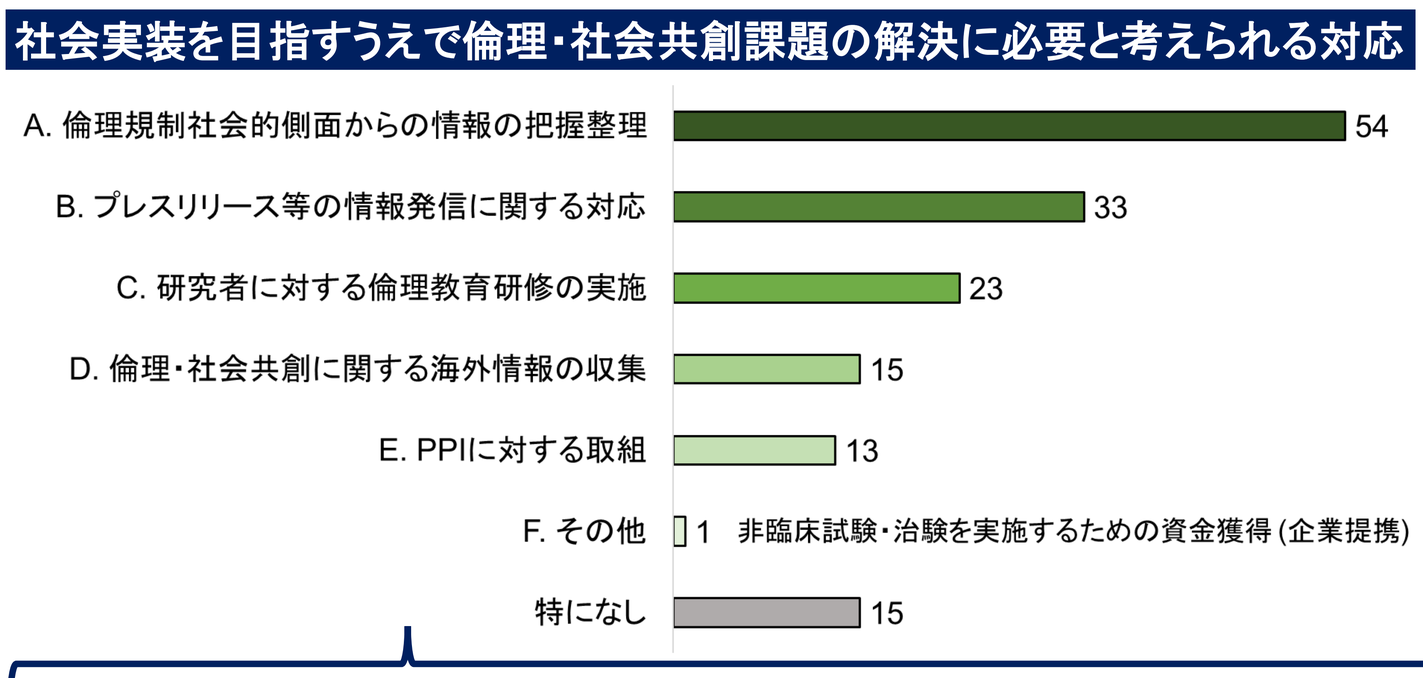
有識者講演会の企画

患者会・患者団体と連携した教育・啓蒙活動、意見交換

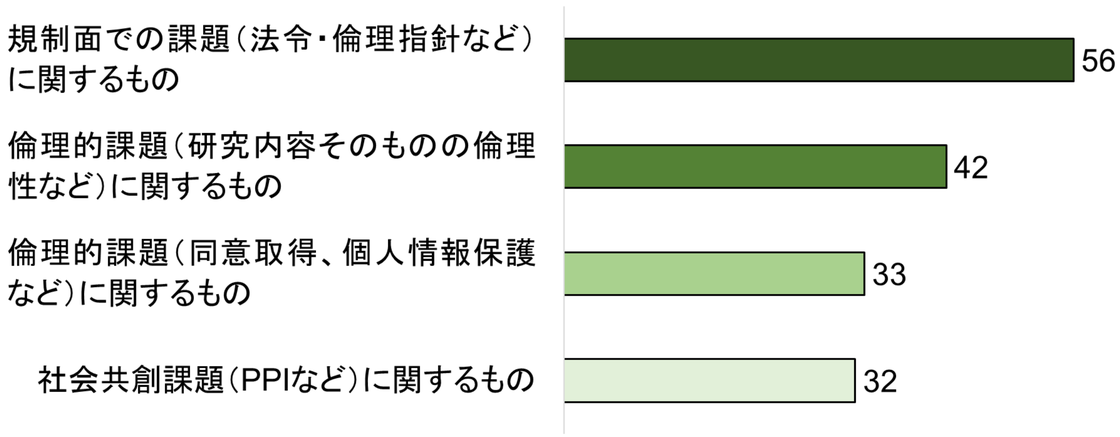
研究成果についてプレスリリース・記者会見

日本稀少疾患コンソーシアム(RDCJ)を設立し、産患学官民の連携

社会実装を目指すうえで倫理・社会共創課題の解決に必要と考えられる対応

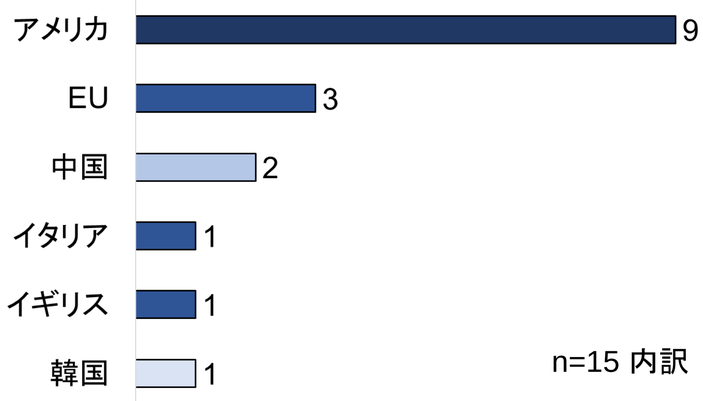


倫理・社会共創に関する情報提供を行う教育研修等で興味があるもの

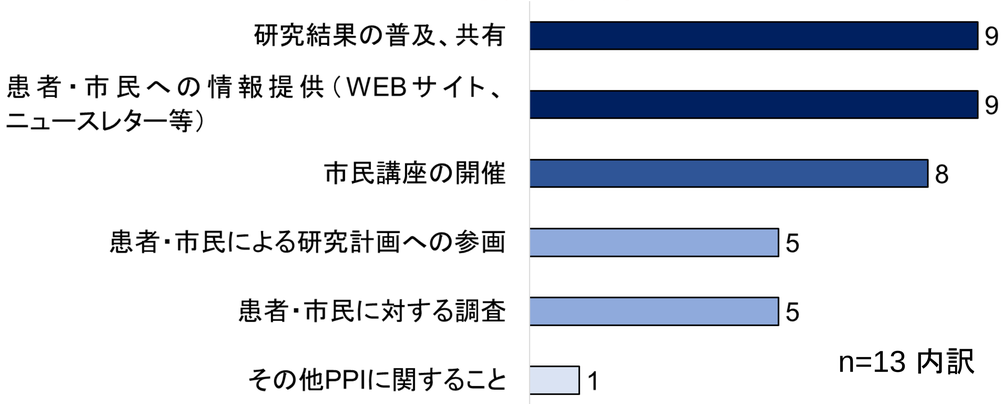


A. 倫理規制社会的側面からの情報の把握・整理

D. 海外情報の収集



E. PPIに対する取り組み



結語・今後の展望

✓ 本調査結果から、再生・細胞医療・遺伝子治療分野に携わる多くの研究者は倫理・社会共創的課題を抱えている可能性があり、潜在的な課題を明確にする支援が必要であることが分かった。

✓ 再生・細胞医療・遺伝子治療の研究開発ごとに社会実装に求められる最適な支援プラットフォームを提供し、早期に解決策を講じる体制を構築する計画である。

本演題発表は、AMEDの課題番号24bm1523009h0001の支援を受けています。

本演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。